

令和1年度 上田市立西小学校 学校評価シート (最終報告)

上田市立西小学校

学校教育目標・目指す児童の姿	今年度の重点目標	成果と課題	改善策・向上策	評価
<p>進んで学び、 豊かな心をもって、 たくましく生きる子</p> <p>かしこく・やさしく・たくましく</p>	<p>○かしこく 《学力向上》</p>	<p>児童アンケートの結果から、9割を超える児童が授業は分かりやすいと感じている。保護者アンケートでの「わかりやすい授業をしているのAB評価も9割を超えた。夏休み中に実施した学力分析と今後の取り組み、各種研修をもとに、「わかる授業」の工夫、「ねらい、めりはり、みとどけ」の3観点を生かした授業の展開を各学級で取り組んできた。さらに今年度は主体的な学びに向けて児童の意識に沿った授業を重点に授業改善を行った。</p>	<p>各種研修をもとに、「わかる授業」の工夫、「ねらい、めりはり、みとどけ」の3観点を生かした授業作りに取り組んでいく。また来年度も児童の意識に沿った課題や発問の工夫をしていき学習への意欲を高めていきたい。このことが主体的な学びへとつながり、長年課題となっている表現力の向上にもつながると考える。さらに、基本的な学習習慣を整え、友だちの前で遠慮なく自分の考えを言えるような学級集団を目指していく。</p>	B
	<p>○やさしく 《人間関係力向上》</p>	<p>全教育活動の中で人権尊重の心を育てるよう取り組んできた。特に地域との交流や異学年との交流、地域ボランティア活動を行ったことで、幅広い人間関係をつくることにつながっていった。児童アンケートの結果から、9割を超える児童が友だちにやさしくできると感じている。一方で、できていないと感じている児童に寄り添っていく必要がある。</p>	<p>引き続き全教育活動の中で人権尊重の心を育てるよう取り組んでいく。悲しい思いや自分を出し切っていない児童に寄り添った支援をし、みんなが楽しいと思える学校を目指したい。そのために、なかよしアンケートやQ U検査を有効に活用していく。また、交流活動、道徳・人権教育等を通じ・自己肯定感・自己有用感を高めるような支援を考えていきたい。</p>	B
	<p>○たくましく 《体力・精神力向上》</p>	<p>毎朝継続して取り組む身体みがき、月1回の身体みがき集会、児童会主催の「なかよしの日」での外遊び活動など全校で取り組んできた。1学期には運動会、2学期には西小アドベンチャー、3学期には大縄チャレンジを行い、各学級学年でめあてをもって取り組むことができた。休み時間等校庭や体育館で身体を動かして遊ぶ児童が姿がいる一方でそのよさを感じていない児童もいる。</p>	<p>運動を進んでする児童と、ほとんどしない児童の差があるので、誰もが楽しめる、気軽にできる運動を、体育の授業や全校運動で紹介し、身体を動かすことの楽しさを味あわせたい。また、児童会と連携しながら体力向上につながる継続的な取り組みも検討していきたい。さらに、今年度行った新体力テストの結果を指導の参考にしていきたい。</p>	B

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	改善策・向上策	評価
		◇運動(身体みがき)、ドリル(頭みがき)、表現(声みがき)、人権教育(心みがき)の実践と評価	日課の中に位置づけ、実態に応じた内容を全校で実施し、伸びを評価できたか。	週3回の「みがきタイム」の時間を継続して取り組むことができた。児童アンケートの結果から、それぞれ8割を超える児童が、みがき活動によって成果を感じている。さらに、児童が活動を通じ伸びてきている点を振り返る場を充実していきたい。心みがきは全教育活動	児童アンケートから一定の成果がみられるが、AB評価は横ばいであり、活動がややマンネリ化してきている。毎日の4つのみがき活動が、学力の定着や活用、表現力の向上につながっているかを評価し、確実に力がつくような内容の工夫をさらに検討していきたい。	B

教育課程			の中で人権尊重の心を育てるよう取り組んできた。さらに道德の授業研究グループによって人権教育に関わる授業研究を行った。	さらに、振り返りや自己評価をする場を、位置付けていきたい。また、引き続き家庭での身体もがき運動への取り組みの呼びかけを行っていきたい。		
	◇特別支援教育の考え方と手法を取り入れた指導	掲示、発問、環境の工夫、「個別の指導計画」の活用、学校内外との連携により個に応じた指導が行えたか。	児童アンケート「授業はわかりやすい」では、AB評価が9割を超えている。重点研究や公開授業を通じて授業改善に取り組んできた。今年度は、授業を語る会として、授業の板書を持ち寄り研修を行った。さらに特別支援教育についての職員研修を行い、授業改善や学習環境などに活かした。また必要に応じて支援会議を開き、個に応じた支援・指導をきめ細かく行った。	引き続き授業のユニバーサルデザインを意識した教室環境や板書の工夫、机間指導を年度当初に全職員で確認し、実施していく。さらに、授業改善に向けて、子どもたちの意識に沿いながらどの子どもも安心して授業や活動に取り組めるような視覚支援や掲示方法、発問や板書などの工夫を心がけていきたい。そのために来年度も授業を語る会の研修を継続していきたい。	B	
	学習指導	◇基礎学力の定着と活用・表現力の向上	基礎を繰り返す「頭みがき」を中心としながら基礎学力の定着が図れたか。	児童アンケート「頭みがきを続け、計算力がついた」では、AB評価が85%であった。「進んで発言できる」は61%、「自分から調べたり、聞いたり、まとめたりできる」は74%であった。多くの児童が頭みがきによる自分の力の伸びを感じている。また主体的な学びは前年度より1割程度向上している。しかし表現力の向上について課題がある。	引き続き「頭みがき」に取り組み基礎学力の向上を目指す。さらに取り組む問題も児童の実態に合わせ工夫していく。表現力の向上に向けて、どの児童も安心して自分の考えが言える学級の雰囲気作りを行う。その上で児童が主体的に取り組む授業を目指したい。そのために児童の意識に沿った学習問題が設定できるよう教材研究を行う。	B
			繰り返しの「声みがき」を中心としながら、自己表現力の向上を図れたか。	児童アンケート「声みがきに取り組み、楽しく音読や歌を歌うことができた」では、AB評価が85%である。児童は、毎朝の声みがきや音楽会前の歌みがきで声を出す楽しさを感じている。一方で自分の考えを発表することが苦手だと感じている児童も多く、声みがきの成果が十分結びついていない。	毎朝、音読や歌を各学級で取り組んでいるので、さらに興味を持って、楽しくできるような題材選びや形態の工夫を考えていきたい。また、この活動を授業や行事に活かし、達成感が得られるよう自己表現力の向上へとつなげていきたい。	B
		毎日の読書の積み重ねを通して本に親しむ子どもの姿が見られたか。	今年度も毎週月曜日の朝の15分間行われている読み聞かせボランティア「ぶんぶんぶん」による各学級での読み聞かせ、読書週間、ペア読書などの実施により、本に親しむ姿が見られた。本年度は一人平均116冊の貸し出しがあった。また昨年に引き続きバリューブックスさんのご協力で、学級文庫が充実し、本に親しめる機会が増えた。	本に親しんでいる子どもたちは多いので、さらに様々なジャンルの本に親しんでいけるように、図書館司書や担任からいろいろな本の紹介をしたり学級での読み聞かせの機会を増やしたりしていきたい。また、来年度も読書旬間を設け、新たな本との出会いのきっかけとなるようにしたい。	B	
	家庭学習ノート「紡ぐ」を活用し、家庭学習の習慣が身についたか。	児童アンケート「家庭学習の目安(学年×10分)に取り組む」では、AB評価が83%、「家庭での学習に進んで取り組んでいる」では、AB評価が86%であった。家庭学習の習慣が身に付いている児童が	家庭学習の中身について、さらに授業に対応した内容にするなど、質の向上への取り組み、学年に応じた内容の工夫に取り組む必要がある。また、学年間や学級間で差が出ないように、揃える			

			多い。自主学習が充実してきている児童もいる。家庭学習ノート「紡ぐ」を使用し3年が経つ。昨年度よりわずかではあるが評価が向上している。保護者と連携してより有効な活用の仕方を考えていきたい。	ところは揃えて取り組んでいきたい。来年度も市教委で作成した家庭学習ノート「紡ぐ」を全校で使用する。これを通して家庭との連携を深め、より充実した家庭学習を行っていきたい。	B
生活指導	◇あいさつと交流による敬意に基づく集団の形成	あいさつ運動や異学年との交流、西小アドベンチャーなどを通して、子どもどうしの繋がりを深めることができたか。	児童アンケート「大きな声で、笑顔あるあいさつができる」では、本年度のAB評価が71%であった。「ハイタッチあいさつ」や児童会の「あいさつ隊」が全校に浸透しているが、ここ数年児童の評価は停滞している。「西小アドベンチャー」、児童会主催の「西小なかよしタイム」「ペア読書」「なかよし給食」、さらにペア学年同士の交流活動は、異学年交流を深める機会となった。	「ハイタッチあいさつ」や「あいさつ隊」は、西小の特色の一つとして引き続き行う。さらに地域や保護者にもあいさつの輪を広げていきたい。児童の中には挨拶ができないと感じている子もいることも考えながら各学年で日常の中で挨拶の輪が広がりそのよさを感じられるような取り組みをしていく。また、児童が友と繋がるよさを感じられる交流活動に取り組んでいく。	B
		生活科や総合的な学習の時間を通して地域の理解や繋がりを深められたか。	保育園・幼稚園との交流、福祉施設との交流、米づくり、地域の歴史や伝統的な行事、地域で働く人々の学習、公民館での交流活動を通して、地域とのかかわりやつながりの場を設けてきた。児童は地域の特徴やよさにふれることができた。	来年度も地域との連携を大切に授業等で地域素材を積極的に扱っていく。その際、ただ地域素材を扱うだけでなく、児童が課題意識をもって地域の人・こと・ものから主体的に学ぶことができるような学習を展開していきたい。	B
	◇心と身体みがき	毎朝の「身体みがき運動」を中心に身体の健康の維持や向上を図れたか。	児童アンケート「身体みがきの運動に取り組み、進んで体を動かす」では、AB評価が87%であった。月1回全校で集まって行う「身体みがき集会」も、継続して取り組む意識づけとなっていた。長期休暇の際には身体みがきチェック表を配布し家庭での継続的な取り組みを呼びかけた。	朝の会や体育での準備体操等で身体みがき運動に継続的に取り組んでいく。家庭でも継続して取り組めるようさらに発信していきたい。また、児童が身体みがきの意義や効果を考え、取り組む良さや喜びをもてるようにしたい。さらに、柔軟性など成果が実感できるよう定期的に測定をしていく。	B
		無言清掃や道徳教育を通して、頑張る気持ちや人権感覚を高められたか。	児童アンケート「清掃はしゃべらず、一生懸命取り組む」では、AB評価が全校では85%であり、ここ数年で一番高くなった。昨年度より児童会での呼びかけや各学年ごと無言清掃への取り組みを継続して行っており、その成果が表れてきている。また、「思いやりの心をもって、友達にやさしくできた」では、AB評価が93%であり、これもここ数年で一番高くなっている。交流活動等を通じ多くの児童が友だちにやさしくできたと感じている。	清掃については、児童会の活動などを通し、全校で無言清掃に取り組んでいく。その際、各学年の取り組みのよさを全職員で学び生かしていきたい。さらに児童が達成感を感じることでできるような振り返りの場を工夫していきたい。このような取り組みを継続して校風として高めていきたい。人権感覚については、日常の中で人権感覚を高めることを意識し、個々の子どもたちの様子を丁寧に見て指導・支援をしていきたい。さらに交流活動を各学年位置付け取り組んでいく。	B
	◇地域の素材・人材を活用した教	地域の素材・人材と関わりを持った学習	児童アンケート「西小のまわりの地域のこと	今後も地域素材を扱った学習の機会を	

学 校 運 営	地域との連携	育活動	活動が展開できたか。	や、人物の学習をしている」では、AB評価が71%であった。多くの学年学級で地域の素材を扱ってきている。実際に地域に出たり、地域のことを学んだりしたことで、地域のよさを感じた子がいる。一方で3割の児童にとっては扱った地域素材についてあまり印象に残っていない。地域素材の中身を充実していかないと印象に残らないと思われる。	多くしていきたい。また、内容の充実も図っていく必要がある。そのために地域素材の発掘に加え、子どもたちが地域のよさを感じられるように地域素材との出会わせ方など学習展開の工夫をし、問いが生まれ主体的に学ぶような学習を模索したい。また、コミュニティスクールなども活用し地域素材や人材を発掘していきたい。	B
		◇信州型コミュニティスクールを視野に入れた学校支援ボランティア活動	地域と連携した学校支援ボランティアを組織し、活用するとともに、広く広報できたか。	学校支援ボランティアの方に、様々な場で関わっていただいた。見守り隊、読み聞かせ、放課後学習室、クラブ活動、登山、米作り、園芸、清掃、生活科・総合的な学習講師、スケート教室等様々な活動で、保護者の方、地域の方、大学生、専門的な知識や技能を持った方々と積極的な関わりができた。また信州型コミュニティスクール運営委員会を2回行えた。	学校支援ボランティア、信州型コミュニティスクールに関わる情報発信を学校だより・学年だより・学級通信・ホームページ等により一層行っていく。さらに、各ボランティアの横のつながりも考えていきたい。また、今年度の活動の成果と課題を、来年度に活かせるよう引き継いでいく。	B
	研修	◇学習指導の充実や児童理解を深めるための研修、地域保護者との信頼を深めるための研修	授業研修会や生徒指導研修会、非違行為防止研修会を継続的に行い、職員の意識を高めることができたか。	教職員による一人一公開授業の実施、授業を語る会、学力向上のための分析と研修会、全国学力状況調査の分析・算数・体育・道徳・人権教育を中心とした授業研究、特別支援教育の研修会、非違行為防止研修会などを外部講師を招聘しながら実施し、日々の授業に生かしたり、職員の意識を高めたりしてきた。	重点目標に関わる内容について、年度当初に職員研修として位置づけ、職員の指導力向上を図りたい。さらに同僚性を活かし、来年度も授業を語る会を行い、日々の授業や学級経営に生かせるようにしたい。本年度同様に、非違行為防止研修会は必ず職員会議の時に行うようにし、根絶を誓うとともに地域からの信頼を厚くしていく。	B

評価：Aは「十分に達成された」 Bは「基本的に達成された」 Cは「達成されたが課題は残る」 Dは「全体的に達成されていない」を表している。

：7月に「第1回児童アンケート」12月に「教職員アンケート」「第2回児童アンケート」「保護者アンケート」を実施した。

：「音楽会」「運動会」については、保護者アンケートの中で記述形式でご意見をいただいた。

：児童アンケートの「AB評価」は、「そう思う」と「だいたいそう思う」を合わせた評価